

令和5年度第1回八戸市総合教育会議 会議録

開催日時 令和6年2月15日(木) 午後1時30分

場 所 市庁本館3階 議会第1委員会室

構 成 員	八戸市長	熊 谷 雄 一
	教育委員会教育長	齋 藤 信 哉
	教育委員会委員	小瀬川 喜 井
	教育委員会委員	福 井 武 久
	教育委員会委員	西 山 康 巳
	教育委員会委員	小 澤 直 子

議 題 (1)コミュニティ・スクールの導入について
(2)八戸市教育大綱について

開 会

(鈴木 伸尚 次長兼教育総務課長 資料に基づき出席者紹介)

(熊谷 雄一 市長)

それでは、令和5年度第1回総合教育会議を始めます。本日は「コミュニティ・スクールの導入について」と「八戸市教育大綱について」の2件について議題としております。

皆様におかれましては、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、本日の会議を進めてまいります。議題の一つ目、「コミュニティ・スクールの導入について」事務局より御説明をお願いします。

議題(1)コミュニティ・スクールの導入について

①令和5年度教育委員会視察研修報告

(大下 洋一 総合教育センター主任指導主事 資料に基づき説明)

②概要説明

(齋藤 信哉 教育長 資料に基づき説明)

(熊谷 雄一 市長)

委員の皆様の中には、先ほどの視察研修に同行された方もいると伺っております。ただいま説明のありました、コミュニティ・スクールに関する制度や導入経緯、視察研修の報告に対する御意見・御質問等をお伺いしたいと思います。申し訳ございませんが、私から指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。それではまず、小瀬川委員からお願いします。

(小瀬川 喜井 委員)

昨年8月は視察研修に参加させていただく機会を与えていただきまして、本当にありがとうございました。先ほど説明がありました、東山田中学校について、私が感じた八戸市と異なる点や大きな特徴などを3点申し述べたいと思います。

東山田中学校は大変先進的な事例であり、八戸市と大きく異なる点が、まずNPO法人が関係しているところです。例えば、レンタルボックスや産直品などを販売しているところがありましたが、これから少子化が進んでPTA会費なども減少していくことが想定されるため、運営資金の確保は大きな課題になっていくのではないかと考えています。八戸市では、第二中学校の活動に「元気な八戸づくり」市民奨励金制度を活用しておりますが、PTA活動とリンクしながら奨励金等も活用して活動することが、これからの在り方の一つになるだろうという印象を受けました。

2点目は、コミュニティ・スクールに生徒と懇談する会があるということで、生徒の声が吸い上げられている点が印象に残りました。自分事として責任感を持って地域に向き合うことにすこ

く感動を覚えたところです。また、私自身がこれまで16年間、地域学校連携協議会に参加し、大人だけが会議に参加する状況になっていた中で、一日の半分を学校で過ごす子どもたちの声が吸い上げられていくというのは、すごくよいことだと思います。

3点目は、公民館のように使われているところです。我々が視察したコミュニティハウスからそう遠くない場所で、中学生が部活動で汗を流している景色がすごく新鮮でした。また、地元の年配の方々が談笑する場として活用されているということで、非常に開放的な一方で、知らない人が入って来たらどうなるのだろうという不安を抱いたのですが、そこは地域の目によってきちんと守られているという安心感も抱きました。学校は収縮性のフェンスなども備え付けられており、しっかり区切れるようなハード面の工夫もされておりました。八戸市と異なる点もあるかと思いますが、八戸市に合った形でこれまでの地域連携を拡充・発展させて、ゆっくり一歩ずつコミュニティ・スクールの形を作っていければよいと思います。

私自身が子育てをしている中で、地域密着型教育に助けられてきたことが多くございます。まず1つは、学校だけでは学ぶことができないこととしてしめ縄づくりが紹介されていましたが、あれは本当に親だけでは授けることのできない経験であり、やはりそういった経験や体験は八戸市への誇りや愛着の種になるものではないかと思います。核家族化も進んでいますので、異なる世代の人たちと一緒に学ぶ機会はすごく貴重な時間だと思います。私の子どもは、阿房宮の菊づくりや夏休みに学校に宿泊するサマーキャンプ、田植え等に連れて行っていただいたこともあり、本当に地域の方々に“かだつて（参加して）”ですね、“おがして（成長させて）”もらった印象がすごく強く残っています。

また、日々の生活の中でも、雪が降ると朝早くから通学路を整備してくださる方々や、入学式が近くなるとなぜか八戸市は風が強くなるイメージがありますが、そうすると率先して学校の周りを掃除してくださる方々がいて、地域の方々に助けられての9年間であったと強く心に残っています。先ほどの教育長の説明資料の中に、「安全・安心で魅力ある学校づくり」から「地域づくり」、「まちづくり」へ、という矢印があったのですが、やはり三社大祭などの地域の活動に参加することで、子どもたちが地域の人たちから学ぶことがあると思います。それを逆のベクトルで、また学校に還元していくような相互の関係性がコミュニティ・スクールによって生まれると、八戸市らしくてよいのではないかと思います。一市民として、そういったお祭りやまちづくり等の土壌づくりも頑張っていかなければいけないと思っています。

（熊谷 雄一 市長）

続きまして、福井委員からお願いします。

（福井 武久 委員）

私も視察に行きました。東山田中学校が「コミュニティ・スクールについて、長い年月行っているにもかかわらずまだ道半ばである」と言っていたと先ほど説明がありましたが、形は出来つつあるけれども時間がかかるということだと思います。

特に感じたことは、予算的な面についてです。コーディネーターへの報酬や何か事業を実施する時はお金がかかりますので、今後そういった財政支援について徐々に考えていかなければいけ

ないと思います。また、八戸市独自のものとすれば、祭りに参加する若者を育てることでしょうか。以前、中居林小学校の周年行事を見たときに、子どもたちがえんぶりを披露する姿にとっても感動しました。担い手不足が課題となっていますが、小・中学校と地域が一緒になることで、祭りを盛り上げるような活動ができるのではないかと非常に期待しております。

ただし、先ほどお話したように、結構時間がかかると思います。今までやってきた事をコミュニティ・スクールという形に変えるわけですが、おそらく変更後もいろいろな問題が生じてくるかと思うので、是非、教育委員会から予算的な面や人的な面など、いろいろな助言やサポートをしていただければ、徐々に八戸市独自のコミュニティ・スクールが出来上がるのではないかと非常に期待しております。

（熊谷 雄一 市長）

続きまして、西山委員からお願いします。

（西山 康巳 委員）

私も昨年、視察研修に参加し、横浜市の先進校である東山田中学校から勉強させていただきましたが、非常にすばらしい取組だと思って拝見しました。私からは施設設備の面と組織の面の2点についてお話をしたいと思います。

東山田中学校は、当初からコミュニティ・スクールを行うという目的で、校舎が作られた学校であり、学校の中に地域連携本部があることで連携が取りやすい形になっているため、地域の人たちも学校に入りやすい一方で、学校も地域にいろいろなことを頼みやすく一緒に活動しやすいだろうと強く感じました。全てのコミュニティ・スクールでそのようにできればよいのでしょうけれども、なかなか難しいことだと思うので、我々取り入れる側としては、今後どのような形で工夫して解消していくのか考えていければよいと思います。学校運営協議会と地域学校協働本部がうまく連携していくためには、受け皿のような建物があってこそ有効に活用できると思いますので、我々も施設面の工夫をする必要があると感じています。

また、これまでの八戸市における地域学校連携協議会の組織を見ると、教育長の説明資料の10ページにある図のように、主に学校の中に置かれた地域学校連携協議会が、地域の連携も含めて全て行うことが多かったように感じます。そのため、これらを別々のものだと考えずに、一つのものだと捉えている学校もまだたくさんあるかと思います。八戸市も組織をつくるに当たっては、先ほどの東山田中学校のように、学校側の学校運営協議会という組織と、地域側の地域学校協働本部という組織がそれぞれ存在し、連携することによって有効な活用ができるということを意識しながら、地域の人たちの理解と協力を仰ぐことが必要になってくると感じています。

しかしながら、地域の人たちといっても、年配の方々が多くなっており、長く務める心意気はあるけれども、様々な活動をするのが難しくなっている状況もあるかと思います。学校の中から選ぶとなれば、例えば学校のPTAだとすると、中学校であれば3年間しかないわけです。その3年間で何ができるかというとなかなか難しく、短いスパンで次の人へと繋いでいくという組織になっていくと、引継ぎ等の関係から活動が充実しにくいことも懸念されます。したがって、地域の人たちに組織についても理解いただいて、たくさんの方々が参加して協力してくだ

さる組織づくりを進めていければよいと感じています。

八戸市も来年度からスタートするということで、基本的には今まで行ってきた地域学校連携協議会を基盤にして進めることになると思いますけれども、今お話ししたことを学校や地域の方々にもしっかりと説明した上で、この組織が更に有効なものになっていくように進めていただければと感じております。

（熊谷 雄一 市長）

続きまして、小澤委員からお願いします。

（小澤 直子 委員）

まず、東山田中学校の実践例、そして齋藤教育長による導入経緯についての丁寧な御説明ありがとうございました。具体的なコミュニティ・スクールのイメージを持つことができました。私からは、今日の話を受けまして感想を述べさせていただきたいと思います。

まず、東山田中学校の実践例では、コミュニティ・スクールが子どもたちへの高い教育効果とともに、地域の活性化につながっていること、地域の方々の生涯学習の場として大きな役割を担っていること、学校と地域の見事な連携によって丁寧かつ質の高い教育が提供されていることに感動いたしました。学校内に本部を置くことによって、学校を軸にして様々な人が学校に集まり、活動に見える化することで、学校と地域の心の距離が縮まって、地域活動の活性化につながったのではないかと感じております。

八戸市における地域密着型教育でも、それぞれの学校や地域の実情に合わせた様々な特色のある教育活動がなされております。子どもたちが、教師や地域の方々などの多様な人々や世界の中で幅広い社会教育を受けることは、大変幸せなことだと感じますし、また多様な意見に耳を傾けて共感しながら、自分の心に折り合いをつけるという心の成長にも繋がっていると感じております。正に、一人一人のウェルビーイングを目指す八戸市にとって、コミュニティ・スクールは欠くことができない、これからの大切な事業であろうと期待しております。八戸市の地域密着型教育がここまで推進されたことも、これまで長い間携わってきた方々が、今に至るまでに大変な御尽力をされた賜物であると頭が下がる思いでございます。当然、これまで学校や地域の間で様々な問題や課題もあったことと思います。しかし、すべては子どもたちのためにという共通の思いの下、協働する立場として学校と地域のパワーバランスを均等に保つことが大切であり、またそのためのファシリテーターも不可欠です。また、地域学校連携協議会において、学校の現状や課題、教育のねらいも丁寧に地域に伝え、地域はそのニーズに則したアイデアで、学校に寄り添う形で支えながら、これからも円滑に教育活動がなされていくことを願います。

そのほか、地域密着型教育コーディネーターの活躍にも今後ますます注目したいと思っております。直接子どもに関わらなくとも、まずは地域住民が学校に関心を寄せて、地域全体で活動を支えられるように、しっかりと情報を発信していくことが大切なのだと改めて感じております。また、幼児教育に携わる者としてお話をさせていただきますと、各地域の幼稚園・保育施設の多くの園長先生方も、各地域の地域学校連携協議会に参加しておられます。各地域の小学校とは、幼保小連携という形で公開授業や教職員同士の情報交換で連携しておりますし、中学校とも職業体

験等で来園するなどの連携をしております。それに加えて、地域学校連携協議会に参加して学校の現状と課題をより深く知ること、地域の一員として学校のためにやるべきことが見えてくるかと思います。例えば、ほんの一例でございますが、不登校問題などでは生徒が安全安心に過ごせる居場所づくりや、子どもを一人孤立させないための見守り、多様な学びの場の一つとしての学習支援、子どもたちが自由に集えて安心して遊べるような遊び場の提供など、ここにも地域の皆様の力を借りながら共にできることもあるかと思います。今後、学校と密に情報を共有し、幼稚園等の地域の社会資源を活用しながら、地域に貢献できることが願いでもあります。

これからますます少子化が進行するということで、今後もしかしたら自分の地域から学校が無くなってしまふかもしれないという危機感を持ちながらも、コミュニティ・スクールを通して地域が活性化をして教育・子育てがしやすく、安全安心に過ごせる地域環境を確立することで、各地域の学校の維持にも繋がっていくことを強く願います。また、地域で育っていつか羽ばたいていく子どもたちが、学校や地域で楽しかった思い出をそれぞれ自慢して、誇りに思ってくれることが何よりの喜びと願ひまして、八戸市の今後のコミュニティ・スクールの発展を心から御期待申し上げます。

（熊谷 雄一 市長）

そのほか、御意見、御質問等ございますか。

〔なし〕

それでは、今までの意見等を踏まえて、コミュニティ・スクールの導入につきまして、教育長から一言お願いします。

（齋藤 信哉 教育長）

大変拙い説明ではございましたが、これから機会があるごとに情報を発信していき、皆さんに御理解いただいた上で進めていきたいと思ひます。

平成20年度に地域密着型教育がスタートしたわけですが、当時は柏崎小学校と第一中学校の2校をモデルにして、そこで取り組んでいただいた結果を基に全市内で導入した経緯があります。私は、導入時に指導主事として関わってしまして、当時も先進地視察をしましたが、全国はすごく進んでいると感じました。その進んでいる取組をいきなり八戸市に持ってきたところで難しいだろうということで、当市の実情に合わせる形で地域密着型教育が出来上がった経緯がございます。16年余りが経過し、各校の実践紹介をしましたが、それ以外にもたくさんの事例が見られるようになりました。正に、現在、国が奨励しているコミュニティ・スクールを導入する時が来たと感じております。加えて、来年度から第3期八戸市教育振興基本計画がスタートするちょうどよいタイミングということもあり、就任後の所信表明にて宣言させていただきました。委員御指摘のように、想定していない課題等が出てくるかと思ひます。課題についても、学校のみならず、家庭、地域の皆様と知恵を出し合いながら乗り越えていければ、さらに中身がよくなっていくと思ひます。いずれにしても、将来、全国もしくは世界に通用する子どもたちを育成するために、できることは何かということをお案しながら進めてまいります。どうぞこれからも御協力お願い

いたします。

（熊谷 雄一 市長）

小瀬川委員からは、地域密着型教育のこれまでの実績を踏まえ、八戸市に合った形で一步一步進めてほしい等の御発言がありました。福井委員からは、時間と人的な予算支援が必要である等の御発言がありました。西山委員からは、施設設備の工夫や地域の担い手の確保も含めた組織の連携が重要である等の御発言がありました。小澤委員からは、学校と地域のパワーバランスやファシリテーターが重要であるほか、教育のねらいを地域にしっかり伝え、地域がそれに応える形で進めてほしい等の御発言がありました。全くもってそのとおりだと思います。

コミュニティ・スクールの導入を進めるに当たって、地域の担い手の育成が一つの目的にあるとすれば、やはり市長部局との連携が重要かと思います。本日、市民連携推進課長も出席しておりますが、例えば、各地域の課題解決のために「市長との公民館サロン」を行っており、地域によっては中学生が参加し発言することで連携を図っている事例報告があります。また、中学生に地域の担い手として活躍してもらう機会を増やしていくために、『『地域の底力』実践プロジェクト促進事業』を行っていますが、例えば、ある地域では避難所の運営について中学生の力を借りる取組もあると伺っております。そういった事例を、コミュニティ・スクールを通じて広めていくため、これまでの実績を踏まえ着実に進めることを願っております。

それでは次の議題に移ります。

「八戸市教育大綱について」事務局より説明をお願いします。

議題(2)八戸市教育大綱について

（鈴木 伸尚 次長兼教育総務課長 資料に基づき説明）

（熊谷 雄一 市長）

ただいまの説明につきまして、委員の皆様から御意見・御質問等をお伺いしたいと思います。せっかくの機会ですので、順番に指名いたしますので御発言いただければと思います。それでは、小瀬川委員からお願いします。

（小瀬川 喜井 委員）

市の取組や目指す姿が具体的に見えたこと、そしてこれから進めていかなければいけない部活動の地域移行や働き方改革等について、具体的に新規事業としてしっかり盛り込まれているところが大変すばらしいと思いながら、拝見させていただきました。

（熊谷 雄一 市長）

続きまして、福井委員からお願いします。

（福井 武久 委員）

基本計画をもって大綱に代えたいということですが、やはり一般の人たちにとって二つ大きな計画があると分かりにくい印象があるので、私は一つでよいと思います。この計画は、非常に微に入り細に入りと言いますか、非常に細かく方向性が定まっているので、この計画一つを運用していくほうが分かりやすいのではないかと思います。

（熊谷 雄一 市長）

続きまして、西山委員からお願いします。

（西山 康巳 委員）

これからの教育を進めて行く上で、課題となるものを精査してうまくまとめた計画だと思って拝見いたしました。特に、コミュニティ・スクールに関わって、個から学校、学校から地域という流れが明確に示されていて、それを基にして事業も区分けをされていることで、拝見していて非常に分かりやすく丁寧にまとめられている計画だと思いましたので、これをもって大綱に代えるというのがふさわしいと考えます。

（熊谷 雄一 市長）

続きまして、小澤委員からお願いします。

（小澤 直子 委員）

今、社会を取り巻く少子化や高齢化、それからデジタル機器の問題等、いろいろな問題が複雑に絡み合う中で、このように丁寧に一つの問題に対して取り組まれていくということにすごく感動しております。西山委員もおっしゃられたように、この個から学校、学校から地域ということで、これから私たちの住む地域の底力が必要になっていくと思いますので、その旨も踏まえて改めてこの計画を読ませていただき、自分にできることを考えたいと思います。

（熊谷 雄一 市長）

教育長から何かございますか。

（齋藤 信哉 教育長）

今回の改定のポイントは、先ほど担当課の鈴木次長兼教育総務課長からもありましたとおり、これまで社会教育と学校教育をそれぞれ分けていたものを一体化したところが、大きな改定のポイントになります。

今後は、コミュニティ・スクールを含めた本計画について、学校の教職員のみならず、保護者及び地域住民としっかり共通理解を図り、一緒になって取り組んでまいりたいと考えております。

(熊谷 雄一 市長)

私も事前に資料をいただきまして、教育振興基本計画を熟読させていただきました。大変すばらしい内容であると思います。したがって、今各委員からいただいた発言も踏まえ、事務局が説明したように、この計画は教育大綱の代替に値するものだと思いますので、第3期八戸市教育振興基本計画をもって八戸市教育大綱とすることを決定いたします。

なお、この大綱、そして計画に基づいて教育施策を充実させていくためには、やはり教育委員会と市長部局のより一層の連携が重要であると考えておりますので、それは意見として付しておきます。

次に、「その他」ですが、皆様から何かございますか。

〔なし〕

そのほか、事務局から報告等がありますか。

〔なし〕

それでは、本日は大変お疲れ様でした。コミュニティ・スクールの導入、そして八戸市教育大綱、ともにこれからの八戸の教育行政にとりまして非常に重要なところでございます。出た意見をしっかりと受け止めて、繰返しになりますが、教育委員会と市長部局との連携をしっかりと図りながら、八戸市の教育行政の発展のために努めてまいりたいと考えておりますので、引き続き御協力よろしくお願いいたします。

これを持ちまして、本日の議題はすべて終了いたしました。進行を事務局へお返しします。

閉 会

(鈴木 伸尚 次長兼教育総務課長)

皆様、長時間にわたり、貴重な御意見をいただきまして大変ありがとうございます。本日のいただいた御意見等は、八戸市の教育行政の更なる充実・発展にいかしてまいります。

それでは、以上を持ちまして、令和5年度第1回八戸市総合教育会議を閉会いたします。

皆様、お疲れ様でした。

(午前2時50分 閉会)